



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

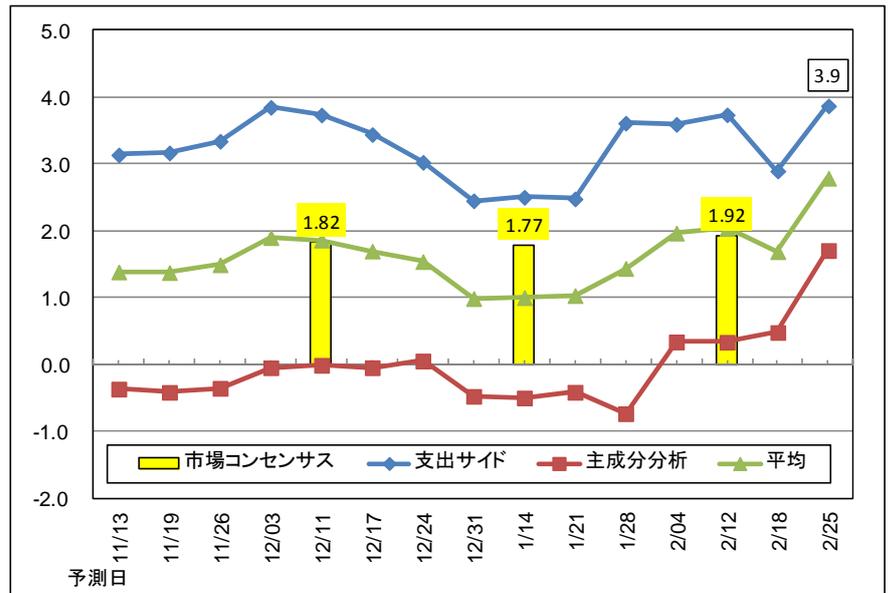
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年2月25日)

## ポイント

- ▶今週の予測では、先週(2/18-2/22)発表されたデータのうち、1月の貿易統計、12月の建築総合統計を追加。これらは、公的固定資本形成及び純輸出の予測値に影響を及ぼす。
- ▶12月の公共工事は前月比-1.5%減少し、3ヵ月ぶりのマイナス。実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された。
- ▶1月の貿易収支は過去最大の赤字だが、季節調整済値は前月比-13.4%縮小し、2ヵ月連続のマイナス。
- ▶1月は輸出、輸入ともに3ヵ月連続の前月比プラス。両者の予測値はともに上方修正されたが、前者の修正幅が後者を上回ったため、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された。
- ▶この結果、今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、国内需要が拡大し、純輸出も反転拡大するため、前期比年率+3.9%と予測する。先週の予測から上方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013Q1 (%、前期比年率換算)



### <1月貿易赤字は過去最大だが、季節調整値は2ヵ月連続で縮小。純輸出は1-3月期の景気を押し上げる。>

先週(2/18-2/22)は、1月の貿易統計、12月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、建築総合統計及び景気動向指数(改定値)が更新された。これらのデータは、公的固定資本形成及び純輸出の予測値に影響を及ぼす。

12月の公共工事は前年比+16.6%増加し11ヵ月連続のプラス。季節調整値(APIR 推計)は前月比-1.5%減少し、3ヵ月ぶりのマイナスとなった。この結果、10-12月期は前期比+0.4%と前期の伸び(+4.6%)から減速した。12月実績値は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された(前期比+5.1%→同+4.4%)。

1月の貿易収支は-1兆6,294億円と7ヵ月連続の赤字となった。過去最大の赤字で、赤字幅は前年比+10.0%拡大。季節調整済値は-6,789億円と23ヵ月連続の赤字を記録したが、赤字幅は前月比-13.4%縮小した。2ヵ月連続のマイナス。

1月の輸出金額は前月比+3.6%と3ヵ月連続のプラスと回復の兆しを見せている。実績値は事前予測を上回ったため、1-3月期の実質財貨・サービスの予測値は先週から上方修正された。一方、1月の輸入金額は同+1.4%と3ヵ月連続のプラス。実績が事前予測値を上回った結果、1-3月期の実質財貨・サービスの予測値も先週から上方修正。輸出入の予測値がともに上方修正されたが、前者の修正幅が後者を上回ったため、同期の実質純輸出の予測値は先週から上方修正された。

公的固定資本形成の予測値が下方修正されたが、純輸出の予測値は上方修正された。この結果、今週のCQM(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を、国内需要が拡大し、純輸出も反転拡大するため、前期比+1.0%、同年率+3.9%と予測する。先週の予測(+2.9%)から上方修正。また2012年度の実質GDP成長率を+1.0%(先週：+0.9%)と予測する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550